

## ■知的支援学校における実践事例

# 活用が広まってきたマルチメディアDAISY図書

京都府立南山城支援学校

廣岡 和美、加藤 安貴子、矢野 真理恵

### はじめに

3年前に本校でマルチメディアDAISY図書の使用が始まった頃は、音読指導や言語指導の限られた場面の活用でしたが、今年は少しずつ全校に活用が広がってきました。

また、その際にiPadをアップルTVとWi-Fiを活用し、無線で大型テレビやプロジェクターに映すことで、子どもたちがより活用しやすくなりました。

マルチメディアDAISY図書は、親しみやすく、読書の楽しさや音読の楽しさを引き出す、大変魅力的な存在です。

では、以下の項でいくつかの事例を紹介します。

### 言語の個別指導場面で活用

理解力はあるが音声発信困難で、まだ少ししか文字が読めない子どもにとっては、マルチメディアDAISY図書を活用した授業は、本に親しむ機会として、楽しい学習になっています。マルチメディアDAISY図書

を聞いた後に、文章で質問と答えの選択肢を書いておくと、一文字ずつトーキングエイドに入力し音声読み上げを聞くと、どれが正しい答えなのかが選択できます。興味や知識の幅を広げながら、本人の理解力を確認できる授業になっています。

昨年は、『地獄のそうべえ』『11ぴきのねこ』などを読んでいましたが、今年は『もりのへなそうる』、『おこだでませんように』、『銀のうでわ』などの長い物語も楽しめるようになりました。音声の豊かな表現力と、絵と文字のバランスを個人に合わせて見やすいように設定できるので、お話の世界に入り込むことができたようです。



## ことば・国語の学習場面で

小学部の発達段階が10ヶ月前後のクラスの子どもは、『へんしんマラソン』を楽しく聞くことができました。馬が「ぱっか、ぱっか、ぱっか」と走り、途中で音が「かっば、かっば、かっば」に変化するところがおもしろくて、笑って聞くことができました。

障害が重くても、音や登場人物の姿の変化を楽しむことができ、画面をよく見て楽しむことができました。マルチメディアDAISY図書を使った勉強が大好きな子どもです。次はどんなお話が聞けるのかを心待ちにしています。

## AAC出前事業で

言語担当者が全校（小・中・高）のクラスにアンケートを取り、AACを活用した出前授業の希望をきいています。希望があったところに出向いて授業を行うようになって2年目になりました。アップルTVと大型テレビまたはプロジェクターを繋ぎ、Wi-Fiを教室内にセットし、iPadをハンズフリー（コードレス）で使用すると、さらに使いやすい環境下で見ることができます。

マルチメディアDAISY図書をみんなで一緒に見た後に、登場人物を発

表させて言葉で確認します。言葉が出にくい子どもには絵カードをいくつか用意して提示すると、正しい登場人物だけを選ぶことができ、理解を確認することができました。

内容について深めた後で、再度マルチメディアDAISY図書を立ち上げると、読み上げ音声に子どもたちが声を合わせて進んで音読できました。ハイライトで示された文字を注目できるので、声も自然に揃います。繰り返し読むと、だんだん読むスピードを速く設定しても読むことができました。読み上げスピードを自在に変えることができるので、大変使いやすいと思います。

『コッケモーモー』では、動物の鳴き声部分を音声と共にみんなで音読し、読書を楽しむことができました。『わにさんどきっ はいしゃさんどきっ』では、読み終えた後に「だれ」「どこ」「なに」などの質問に答えることができました。



『ぞうくんのおおかぜさんぼ』では、マルチメディアDAISY図書で出てくる絵柄とは違う絵カードを用意し、登場人物を質問しました。違う絵柄でも選ぶことができ、その動物の概念を正しく理解することができていました。また、絵カードと文字カードをマッチングさせることで、文字の理解も進みました。

## まとめ

マルチメディアDAISY図書の魅力は、それぞれの子どもの学習課題や障害の種別に合わせて使えること、文字が読めない人も読書を楽しめることだと思います。将来的に余暇を過ごせるツールとして、マルチメディアDAISY図書がもっと社会に広がってくれることを期待しています。

